

平成29年2月

細田康平 学位論文審査要旨

主 査 竹 内 裕 美
副主査 林 一 彦
同 磯 本 一

主論文

Expression of methylation modulated tumor-related genes in endoscopically resected early esophageal squamous neoplasia

(内視鏡的切除された早期食道扁平上皮性腫瘍におけるメチル化により調節される癌関連遺伝子の発現)

(著者：細田康平、八島一夫、田本明弘、山本宗平、川田壮一郎、池淵雄一郎、松本和也、河川剛一郎、原田賢一、村脇義和、磯本一)

平成29年 Oncology Letters 掲載予定

参考論文

1. Frequent aberrant p53 and Fhit expression in endoscopically resected superficial hypopharyngeal cancer and its double esophageal cancer; evidence for field cancerization

(内視鏡的切除した表在下咽頭癌とその重複食道癌の高頻度p53およびFhitの発現異常；フィールド・キャンサライゼーションの証拠)

(著者：山本宗平、八島一夫、川田壮一郎、細田康平、田本明弘、池淵雄一郎、松本和也、河川剛一郎、原田賢一、村脇義和、磯本一)

平成29年 Oncology Letters 掲載予定

審査結果の要旨

本研究は内視鏡的に切除した食道腫瘍を用いて、免疫組織化学染色 (Fhit、E-cadherin、Mlh1/Msh2、COX-2、p53) を行い、早期食道扁平上皮性腫瘍における癌関連蛋白の発現異常を調べたものである。その結果、FhitとE-cadherin蛋白発現異常およびメチル化関連蛋白 (Fhit、E-cadherin、Mlh1/Msh2、COX-2) 発現異常の平均蓄積数は深達度との関連を認め、この結果はメチル化関連蛋白発現異常の蓄積が発癌のみでなく早期腫瘍進展にも関与することが考えられた。本論文の内容は、内視鏡的に切除された食道腫瘍という早期病変で癌関連蛋白の発現異常を検証し、癌関連遺伝子のメチル化とその様式の理解を深めることにより食道癌の発生、治療、化学予防の経路について新たな見解が得られる可能性があり、明らかに学術水準を高めたものと認める。